

赤谷プロジェクト 10周年・フィールドセミナー『募集要項』

NACS-Jが2003年から取り組んできた「赤谷プロジェクト」は今年で10年目を迎えます。関東森林管理局、赤谷プロジェクト地域協議会とともに“多様な主体の参画による、科学的な自然の管理”を10年間実践してきました。この成果と意義を、多くの方に実感して頂くために、NACS-J主催のフィールドセミナーを開催します。赤谷の森を“科学的に管理する”ことと共に取り組んできた研究者の方々を講師に迎え、実際に森の中を歩きながら、プロジェクトの取り組みをご紹介致します。



主催／共催：日本自然保護協会／みなかみ町

日程：第1回 9／8（日）「自然林の復元」 講師：亀山章（植生管理WG座長）

第2回 10／6（日）「溪流環境の復元」 講師：中井達郎（溪流環境復元WG委員）

第3回 12／8（日）「クマタカを指標とした森林管理」 講師：山崎亨（猛禽類WG座長）

※各回のプログラム概要は別紙を参照。少雨の場合はプログラムを変更して開催します。

定員：各回 15名（先着順）

集合・解散：9:45 上毛高原駅集合／ 16:30 上毛高原駅解散

参加費：各回 5千円（NACS-J会員及びみなかみ町民は2千円）※保険料・昼食代込

申し込み方法：

以下の①～⑩の項目を記載してEメールかFAXでご連絡下さい。

Eメール：akaya@nacsj.or.jp

FAX：03-3553-0139

①メールタイトルかFAXの冒頭に「赤谷フィールドセミナー申し込み」とご記入下さい

②参加を希望する回（複数の記入も可 Ex.「第1回と第3回」）③氏名（ふりがな）、

④性別、⑤年齢、⑥郵便番号と住所、⑦NACS-J入会の有無、⑧メールアドレス、

⑨電話番号（自宅と当日連絡用携帯電話）、⑩その他（長靴貸し出し等）

その他：上毛高原駅集合後の移動は、こちらで用意した車で移動します。自家用車で来られる方は上毛高原駅周辺の駐車場をご利用下さい。開催日の前後に、「猿ヶ京三国温泉郷」の宿にご宿泊の方は、集合前及び解散後に送迎ができますのでご相談下さい。

お問い合わせ：

日本自然保護協会 保護プロジェクト部 出島・藤田 TEL：03-3553-4107

*資生堂花椿基金の支援を受けて開催します。

第1回 「自然林の復元」 講師：亀山章

赤谷プロジェクトにおける生物多様性復元の柱の一つが、人工林を本来その地域にあった自然林へ誘導する取り組みです。今回、植生管理ワーキンググループ座長として、これらの取り組みを進めてきた亀山章(東京農工大名誉教授・日本自然保護協会理事長)さんにご紹介して頂きます。

植生管理WGでは、自然林を復元するための試験地を、この10年間で4箇所設定しました。スギ人工林における列状間伐、小面積の皆伐、大面積の皆伐、自然林との距離や人工林としての履歴等、人工林を自然林へ誘導するための方法を模索してきました。これまでの取り組みで何がわかり、何が課題なのか、植生管理WG10年の取り組みを、すべてご紹介したいと思います。

<プログラム概要(予定)>

- 0945 上毛高原駅集合→1000車移動
- 1030 プロジェクトエリア全域の概要を野外で解説(いきもの村付近)
- 1115 自然林復元の取り組みを室内で解説(川古温泉・浜屋旅館内)
- 1145 昼食→12:15車移動
- 1230 小出俣林道調整池着～自然林復元試験地～広葉樹残存試験地～カラマツ試験地
※1時間半程度試験地内を歩いて移動します
- 1430 ブナの二次林と水辺林
- 1530 林道入口着→15:45車移動開始
- 1630 上毛高原駅

※川古温泉に入浴を希望される方は18時頃上毛高原駅着でお送りできます。

<持ち物>

服装：速乾性があり、気温の変化に対応できる服装をお願いします。

靴：ヤマビルが生息していますので、厚手の靴下と長靴をおススメします。

※長靴の貸し出しを希望される方はサイズをご連絡下さい。

その他：筆記用具、両手が空けられるカバン、タオル、飲み物、帽子、行動食 など



↑2011年秋に伐採した小出俣エリアの自然林復元試験地(2012年9月撮影)

第2回 「溪流環境の復元」 講師：中井達郎

第2回は、「溪流環境の復元」をテーマに、溪流環境復元ワーキンググループ委員の中井達郎（国土舘大学講師・日本自然保護協会理事）さんにご紹介して頂きます。赤谷プロジェクトでは、2009年に茂倉沢の治山ダム（2号ダム）の中央部撤去を実施し、画期的な取り組みとして注目を集めてきました。しかし、茂倉沢においてはそれ以外にも、溪流環境と防災を両立するための、様々な取り組みが行われています。

今回は、溪流環境復元の取り組みを行ってきた茂倉沢を下流から上流まで歩きながら、溪流環境の本来の姿や、それを生み出すダナミズム、治山ダムの防災機能と溪流環境への影響、それらを両立するための取り組みについて、現場を見ながらご紹介します。

<プログラム概要（予定）>

- 0945 上毛高原駅集合→1000 車移動
1030 プロジェクトエリア全域の概要を野外で解説（いきもの村付近）
1115 茂倉沢の溪流環境復元の取り組みの紹介（川古温泉・浜屋旅館内）
1145 昼食→12:30 徒歩移動開始
1230 川古温泉から～1号ダム～林道終点を目指す。
※3 km（約2時間半）歩道のない溪流沿いを、沢を渡りながら歩きます。
1500 茂倉林道終点→ 車移動
1530 川古駐車場着→15:45 車移動
1630 上毛高原駅

※帰りに川古温泉に入浴を希望される方は18時頃上毛高原駅着でお送りできます。

<持ち物>

服装：速乾性があり、気温の変化に対応できる服装。

靴：長靴か溪流足袋等。スパイクの靴は滑りますのでご注意ください。

※長靴の貸し出しを希望される方はサイズをご連絡下さい

その他：筆記用具、軍手、両手が空けられるカバン、タオル、飲み物、行動食、他



↑茂倉沢2号ダム（中央部を撤去したダム）



↑茂倉沢5-2号ダム（連続性を確保した床固め）

第3回 「クマタカを指標とした森林管理」 講師：山崎亨

第3回目は、日本の森林に広く生息する大型猛禽類「クマタカ」を指標とした森林の管理について、猛禽類モニタリングワーキンググループ座長の山崎亨（アジア猛禽類ネットワーク会長）さんにご紹介して頂きます。赤谷プロジェクトでは、森林生態系の食物網の上位種であるクマタカを、森林生態系の健全性の指標としてモニタリング調査するとともに、クマタカの生息環境（営巣環境、ハンティング環境、獲物となる動物が生息する環境）の質を向上する森林管理手法の研究も行っています。今回、これらの10年間の取り組みについて、すべてをご紹介する機会にしたいと思います。

※今回ご紹介する情報の中には、希少動物の生息情報にかかわる情報があります。ご参加頂く方には、事前に情報管理についての同意書をご提出頂きますのでご了承下さい。

<プログラム概要(予定)>

- 0945 上毛高原駅集合
- 1000 プロジェクト概要と猛禽類WGの取り組みを解説（観光協会内・予定）
- 1100 車移動開始
- 1130 プロジェクトエリア全域の概要解説～クマタカ観察（ビル屋上）
- 12:00 昼食～12:45 車移動
- 1300 クマタカのハンティング環境（いきもの村）～1400 車移動
- 1430 クマタカの生息環境（某所）*20分程登山道徒歩移動～1545車移動
- 1630 上毛高原駅

※帰りに温泉に入浴を希望される方は18時頃上毛高原駅着でお送りできます。

<持ち物>

服装：防寒を重視した服装・手袋・ニット帽

靴：履きなれた長靴や軽登山靴 等

※長靴の貸し出しを希望される方はサイズをご連絡下さい

その他：筆記用具、双眼鏡、タオル、温かい飲み物、行動食、 他



↑赤谷の森のクマタカ（AMペアのみ）



↑赤谷の森のクマタカ（SGペアの♀）